

シリーズ「国土教育」

教科書で学習する土木とインフラ

現在、私たちが享受している安全で快適な生活は、先人たちが森林や田畑、鉄道や道路を整備し、川を治め、水資源を開発するなど、絶え間なく国土に働きかけを行うことによつて、国土から恵みを返してもらつてきた歴史のたまものです。したがって、現代に生きる私たちも、国土に対して働きかけを続け、将来世代に対して、より良いインフラを引き継いでいかなければなりません。

小・中学校の児童や生徒に学びの場を提供していくことも重要です。今回は「偉人の功績」を通して、土木・インフラの役割や重要性を教えてくれる学習単元や教科書記述を紹介します。

郷土学習(小学4年社会)

小学4年生の社会科には「地域の発展に尽くした先人」が、さまざまな苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを学ぶ学習単元があります。

学習指導要領・同解説によると、この単元では「例えば、用水路の開削や堤防の改修、砂防ダムの建設、農地の開拓などを行つて地域を興した人、藩校や私塾などを設けて地域の教育を発展させた人、新しい医療技術を開発したり病院を設立したりして医学の進歩に貢献した人、新聞社を興すなど文化を広げた人、地域の農業・漁業・工業などの産業の発展に尽くした人など」「開発、教育、医療、文化、産業など」の面で地域の発展や技術の開発に尽くした先人の具体的事例の中から一つを選択して取り上げることが考えられるとされていますが、三つの教科書(東京書籍・教育出版・日本文芸出版)とも、「開発」の面で地域の発展に尽くした先人を取り上げ、教材化されています。

例えば東京書籍は、通潤橋

通潤橋(出典: <https://tsujunbridge.jp/>)

(熊本県山都町の白糸台地に布田保之助らによつて架けられた石橋)を学習素材として取り上げ、「谷に囲まれた台地に水を引く」というタイトルで、16ページを割いて解説しています。

同様に、教育出版は見沼代用水(井沢弥惣兵衛が新田開発のために武蔵国に普請した灌漑農業用水)を、日本文芸出版は那須疎水(栃木県北部出版は那須疎水(栃木県北部

学校の学習指導要領が、一貫して、児童の学習能力が高まった小学4年生の社会科において義務付けてきたもので、戦後80年をかけて土木・インフラの役割や重要性を学ぶ機会

水を供給する用水路。矢板武や印南文作らの尽力によつて整備されたを採録しており、いずれの教科書も十分なページを割いて「地域の発展に尽くした先人」が、さまざまな苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを教えています。

偉人の功績通し学ぶインフラの役割・重要性

会を提供してきました。

偉人の功績(小・中道徳)

小・中学校の道徳教科書の中には、土木・インフラ教育に資する偉人の功績がいくつも採録されています。

1854年安政南海地震津波の出来事をもとにした濱口梧陵の伝記「稲むらの火」は、四つの教科書に採録されています。「稲むらの火」(教育出版、小5)では、地震後の津波への警戒と早期避難の重要性、人命救助のための犠牲的精神を学ぶことができます。「おふさんのじまん」(日本文芸出版、小4)では、「稲むらの火」の物語とあわせて、梧陵と当時の村人たちが追つた「広村堤防」の清掃活動が、現在も町民たちによつて行われていると紹介されています。

「広村堤防の清掃ボランティア」(光文書院、小6)は、広村堤防の清掃ボランティア活動をきっかけにして、濱口梧陵の功績や津波防災の重要性を学ぶストーリーになっています。「稲むらの火」(日本



中村医師(円内)が進めたアフガニスタンの灌漑用水事業

「百の診療所よりも一本の用水路を中村哲」(教育出版、小5)▽「さばくを緑の農地に中村哲医師」(東京書籍、小6)▽「一隅を照らす中村哲」(光文書院、小6)▽「百の診療所より、一本の用水路を中村哲という人間の生き方」(日本教科書、中1)▽「アフガニスタンの人々と共に」(日本文芸出版、中2)▽「真珠の水 中村哲」(あかつき教育図書、中2)

伝記(小学5・6年国語)

小学校の国語科では、戦前から「伝記」が教材として取り上げられています。「稲むらの火」の物語は、1937年から約10年間、国定国語教科書(国語読本)に採録されてきました。ちなみに、この物語は、現在放送中のNHK連続テレビ小説「ぼけはけ」のモデル・小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の著作「Living God」を、小学校教員であった中井常蔵が翻訳・再話したものです。

現在の小学校の国語教科書には、漫画家のやなせたかし氏(1919~2013)や手塚治虫氏(1928~89)の伝記が採録されています。連続テレビ小説「あっぱれ」でも話題になりましたが、やなせたかしはなかなか人を自分の顔を食べさせる心優しい正義の味方「アンパンマン」を描くことで、子どもたちに夢と希望を与え続けました。

(国土学アナリスト 森田康志)